

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070001351
法人名	株式会社 ウキシロケアセンター
事業所名	グループホーム いこいの里 小波瀬
所在地 (電話番号)	福岡県京都郡苅田町新津1505-27 (電話) 0930-24-9051

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年10月8日	評価確定日	平成21年11月13日

【情報提供票より】(平成21年9月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 2 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	12.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	(水道光熱費等) 24,150円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	350 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月28日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	54 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小波瀬病院・重見医院・守永歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「いこいの里 小波瀬」は、苅田町の町並みを見渡せる高台に位置しており、閑静な住宅地の中にある。法人として多様な福祉事業を展開しており、隣接する特定施設との連携・交流が日常的に行なわれている。地域との連携についても、災害時の連携・協力体制の充実や、毎月新鮮な魚や果物を仕入れ入居者も接客に参加して開かれる「朝市」でのふれあい等、積極的な取り組みが行なわれている。外出への支援も積極的に行われており、訪問当日の朝、リビングには入居者の姿は無く、外出先(散歩や隣接施設等)から帰ってくる入居者の方々の豊かな表情はとても印象的であった。母体法人のスケールメリットを活かして、合同行事や職員育成に積極的に取り組んでおり、今後の更なる展開が楽しみなグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降、独自の取り組みとして、職員の自己評価を実施し、日々のケアを振り返る機会として、また自己能力の開発意欲を刺激するよう効果的な職員育成に取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成にあたり、職員の意見を参考にしながら管理者によって集約されている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、家族代表・地域代表・行政担当者等の出席により、2ヶ月に1回定期開催されている。ホームの状況報告や行事案内が行なわれ、家族や地域との意見交換の場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	運営推進会議・オンブズマン委員会(第三者による外部相談委員会)には家族の参加があり、意見や要望の表出の機会ともなっており、運営に反映するよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域での行事(敬老会・盆踊り・祭り等)や活動(清掃・災害訓練等)に参加し、交流を深めている。魚市場から新鮮な魚を仕入れて毎月開催される朝市も恒例となっており、入居者の方々も接客や袋詰め等にて活躍されており、交流を深めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	リビング内に理念・信条を掲示し、常に確認できるようにしている。地域密着型サービスとしての意義を理解し、地域の介護拠点及びネットワーク体制の整備等、具体的にその機能の強化を打ち出している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	職員が意識して理念の実践に向けて取り組めるように、理念を共用空間に掲示し、実践に努めている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入し、地域での行事(敬老会・盆踊り・祭り等)や活動(清掃・災害訓練等)に参加し、交流を深めている。魚市場から新鮮な魚を仕入れて毎月開催される朝市も恒例となっており、入居者の方々も接客や袋詰め等にて活躍されており、交流を深めている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価作成にあたっては、職員の意見を参考にしながら、管理者によってまとめられている。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、家族代表・地域代表・行政担当者等の出席により、2ヶ月に1回定期開催されている。ホームの状況報告や行事案内が行なわれ、家族や地域との意見交換の場となっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム いこいの里 小波瀬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	社会福祉協議会との交流や地域包括支援センターに訪れる際には、情報交換や相談を行なっている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、現在活用している方はいないが、資料を整備し、情報提供を行なっている。また各関係機関の連絡先を備え付けている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	入居者の方々の日々の暮らしの様子や発言、介護計画の実施状況等について、各担当者の手書きによる報告を写真とともに送付している。また「いこいの里通信」を発行し、行事の報告等を写真とともに掲載している。金銭管理についても、収支及び残高報告を行なっている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	運営推進会議・オンブズマン委員会(第三者による外部相談委員会)には家族の参加があり、意見や要望の表出の機会ともなっており、運営に反映するよう努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	職員のスキルアップやレベルアップにより、サービスの質の向上や自己実現の機会を保障するためにも、法人内での異動が行なわれる事もあるが、必要最小限としている。重複勤務等を行い、馴染みの関係づくりへの配慮を行なっている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行なっていない。向上心のある方や社会人としての資質等を重視している。法人として人事考課制度を取り入れ、職員のモチベーションを保つよう取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム いこいの里 小波瀬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	入居者の方々の自由・人権・プライバシーを守るべく、いこいの里推進委員会(オンブズマン委員会)が設置されている。また法人として、身体拘束禁止・虐待防止委員会を設置しており、研修参加や社員ミーティングにおいて勉強会を開催し、啓発活動に取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人内には、虐待防止・口腔ケア・レクリエーションの各委員会(今後、食事委員会も立ち上げ予定)が設置されており、実践的な取り組みが行なわれている。法人として職員の「自己評価」を行い、自己能力の開発意欲を刺激し、効果的な育成に向けて取り組んでおり、結果についても本人にフィードバックしている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	京築地域のグループホーム連絡協議会に参加し、意見交換や情報共有、イベント参加等の交流が行われている。社会福祉協議会等の勉強会や行事にも参加しており、ネットワークを構築し、サービスの向上につながるよう取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	自宅訪問の回数を重ね、本人・家族との十分な話し合いを行い、生活歴や習慣等の情報収集を丁寧に行っている。徐々に雰囲気馴染めるよう段階的な利用を重ね、本人・家族が安心して入居できるよう柔軟に対応している。入居後は家族の協力も得ながら、馴染みの関係づくりに取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	同じ時間を過ごす中で、昔の言葉やその意味、地域の方言等、年長者である入居者の方々に教えてもらう事も多く、またその場面づくりにも努めている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム いこいの里 小波瀬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を活用し、充実したアセスメントを実施しており、生活歴等の把握により本人の全体像を知るための取り組みが行なわれている。また職員の「気づき」についても記録し、本人にとってのより良い暮らしの支援につなげている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向を大切に、職員や医療関係者の意見を反映させた介護計画を作成している。実施表により毎日の状況を確認し、モニタリング・評価につなげている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	毎月モニタリング・評価を実施し、現状に即した計画となるよう努めている。状況の変化に応じて担当者会議にて検討し、見直しを行なっている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	隣接する同法人の特定施設との連携が充実しており、行事やレクリエーション、日常的な交流を積極的に行なっている。また状況により受診介助も柔軟に対応している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の意向によるかかりつけ医との関係を大切に、適切な医療が継続して受けられるよう支援している。法人として「口腔ケア委員会」を立ち上げ、個別の口腔ケア計画を作成し、その重要性を認識し取り組む姿勢がある。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム いこいの里 小波瀬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	看取りに関する方針を示し、家族に同意を得ている。併設する特定施設でもターミナルケアに対応する体制があり、状況の変化に応じて家族や主治医との話し合いを重ね、支援の方向性を共有している。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	いこいの里推進委員会(オンブズマン委員会)が設置されている。日々の暮らしの中でも、入居者の方々への対応の仕方や言葉使い等を職員間で確認しあっている。記録等の個人情報の取り扱いには充分注意し、キャビネットにて保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者一人ひとりの希望や状況にあわせて、起床や就寝、食事時間等、柔軟な対応に努めている。ライフスタイルや個々のペースを尊重し、無理強いとならないように努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	隣接する特定施設での調理となり、入居者・職員が同じテーブルを囲み、食事を楽しんでいる。時にはホームでのおやつ作り(ホットケーキ等)を楽しむ機会もある。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的な入浴日は決めているが、一人ひとりの希望や状況にあわせて柔軟に対応している。個室で対応しているが、ご夫婦で入浴される場合もある。季節にあわせて菖蒲湯や柚子湯等、入浴を楽しむ工夫を行なっている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム いこいの里 小波瀬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	月1回行なわれる朝市では、接客や袋詰めに参加している方もいる。継続して取り組んできた子供パトロール(小学生の登下校の見守り)が、付近の道路工事等の理由により行えなくなっており、アセスメントを活かした新たな役割づくりや楽しみごとへの支援について、独自の取り組みに期待したい。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	天候や入居者の希望・状態に応じて、日常的に外出している。訪問当日の朝、リビングには管理者しかおらず、一人二人と外出先から帰って来るその表情は、とても豊かであった。隣接する特定施設にも、気軽に出かけられる環境がある。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中、鍵をかけないケアを実践している。所在確認や見守り、声かけ等を行い、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	定期的な避難訓練を、地域住民の参加・協力により実施しており、訓練の機会を活用して、心肺蘇生やAED等についての講習を受けている。今年度は、地域の災害訓練にも参加している。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	隣接する特定施設の管理栄養士による、栄養バランス等に配慮された献立が作成されている。食事・水分摂取量は記録し、健康管理につなげている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム いこいの里 小波瀬

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	清潔感ある共用空間には、ソファや畳スペースが設けられており、それぞれがくつろげる場所が確保されている。大きな窓からは苅田町の町並みや、遠く周防灘まで見渡す事ができ開放感のある眺めである。季節の草花や手作りのカレンダーが飾られており、和やかな雰囲気となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室入り口には、入居者の顔写真がかけられており、自室である事の認識がしやすいよう工夫がある。使い慣れた筆筒や大切な写真などが持ち込まれており、居心地のよい部屋づくりへの配慮がなされている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			